

Feature Articles

放送外事業への
チャレンジ

- 10 闇 (MBSメディアホールディングス)
12 あっとほおーむカフェ (スペースシャワーネットワーク)
14 ICTVスマイル農場 (入間ケーブルテレビ)
16 waiwai PLAY LAB (ケーブルメディアワイワイ)

18 「NAB Show 2024」視察レポート

Amagi / AWS / Harmonic / MediaKind / Vislink /
グラスバレー / ソニー / パナソニック コネクト / 朋栄 /
RIEDEL Communications / Blackmagic Design / Brainstorm

Special Interview

- 6 小林信一氏
ウォルト・ディズニー・ジャパン (株) バイス プレジデント パートナーシップ、ディズニープラス&チャンネル

New Series

- 8 TOKAIグループの成長戦略 第2回:トコちゃんねる静岡

Special Report

- 56 CRI視察ツアー「CRI-VISIT ローカル5Gゴルフ場実証実験」

Series Articles and Columns

- 25 市民メディアの現場から ⑧ 取材・文/鈴木賀津彦
26 ミュージックツーリズムの可能性 ④ 文/八木良太
28 放送ビジネスの政治経済学 ⑧ 文/音 好宏
30 世界のメディア曼陀羅華「『ケーブルテレビ2050』をイメージする」 ② 文/猪股英紀
36 地産飛翔〜ケーブルビジネス関連動向(気になるトピック / 機器チェック!)
40 挑み続けるフロントランナー「(株)秋田ケーブルテレビ」 ④ 取材・文/山添亮介
42 アジア衛星TV & 宇宙ビジネス最新情報 ② 文/長瀬博之
44 日本で受信可能なアジア衛星TV一覧
50 自他傍和困我也(じたばたわいがや) ⑦ 文/穂積 融
51 ワハハ本舗 喰始のエンターテインメントのツボとボツ ⑦ 文/喰 始
52 Information 新作映画紹介 & Convention
53 Official Information
スカパーJSAT / 日本CATV技術協会 / 日本ケーブルラボ / CRI
58 NEWS FILE 2024/4/1~4/26

DATA

- 34 CS-CHANNEL RANKING
64 定期購読のおすすめ
65 購読オーダーシート

※福田 淳氏の「考えるメディア」は、今号もお休みさせていただきます。

〈読者の皆さまへ〉

「DATAページ」(各プラットフォーム別加入状況および業界動向データ、CS/BSバイテレビ接触率ランキングなど)の掲載を今号も見送ることとなりました。上記各種データは、誌面には掲載しておりませんが、2024年5月10日に弊社HP (<https://www.satemaga.co.jp/>)にPDFにてアップしております。お手数ですが、こちらから閲覧くださいますようお願い申し上げます。

2024年5月10日

サテマガ・ビー・アイ (株) 月刊「B-maga」発行人 一瀬悦子 / 編集長 池和田一里



有料放送&VODビジネスがわかる! 新社会人にもオススメの一冊



メディア融合時代到来!

【コンテンツ至上主義】視聴者が「選ぶ」メディアは?

多チャンネル放送研究所 + 音 好宏 (上智大学教授&多チャンネル放送研究所所長) 編著

急速に台頭してきた有料動画配信サービス(OTT)の利用実態や、その潜在的ニーズ等を明らかにするとともに、多チャンネル放送に与える影響、多チャンネル放送とOTTとの関係等を分析。メディア融合時代の多チャンネル放送の今と未来を読み解きます。

定価:2,200円(税別)

- 編著:多チャンネル放送研究所 + 音 好宏所長
- 編集・発行:サテマガBi
- 発行日:2016年12月25日
- ページ数:182ページ
- サイズ:A5判



※購入は大手書店、Amazon、サテマガBi HPにて

CLOSE SHOT

宇宙ビジネス展示会「SPEXA」初開催!

4月24日(水)~26日(金)、東京ビッグサイトにて、宇宙ビジネス展示会「SPEXA(スベクサ)-Space Business Expo-」が初開催された(RX Japan(株)主催)。官民挙げて宇宙開発の重要性が増している今、同展示会は「宇宙ビジネスに参入したい/関心がある」人たちにとって最適なマッチングの場となった。

入口には、来場者の目を引く小惑星探査機「はやぶさ2」の実寸大模型がドーンと展示され、展示会場では合計83の出展者が最先端の宇宙技術やサービスを披露、宇宙ビジネスに直結する60以上のカンファレンスも行われ、いずれも満席の盛況ぶりとなった。

なかでも熱い注目を集めたのは、「宇宙実業社」のスカパーJSAT。1989年に日本の民間企業として初めて人工衛星を打ち上げて以来、累計35機、現在17機の衛星を運用。2022年4月には「宇宙事業ビジョン」を発表し、2030年までに1,500億円の成長投資を行うことを決定している。展示会では、次世代のフルデジタル衛星Superbird-9やSpace Compass社のHAPSの模型、衛星データを用いて斜面やインフラの変動リスクをモニタリングする「LIANA」をデモンストレーション、さらには静止軌道上に宇宙ステーションを構築するという将来構想「Yamato」を初お披露目して来場者を驚かせた。

また、小型衛星の製造・運用で高い実績を誇るアクセルスペース、小型SAR衛星の製造・開発のQPS研究所やSynspective、月面探査に挑戦するispace、持続可能な宇宙輸送手段の開発を進めるSPACE WALKERやPDエアロスペース、今年2月18日にデブリ除去実証衛星「ADRAS-J」を打ち上げたアストロスケール等々、今、注目の宇宙スタートアップが勢揃いした。

スカパーJSATの次世代衛星Superbird-9と宇宙ステーション「Yamato」 小惑星探査機「はやぶさ2」の実寸大模型

